

心新に「チーム秋田」

競技本部長 田 口

国体第70回という区切りの大会で未踏の皇后杯6連覇に兆んだ「ぐんま国体」が片品で10年ぶりに開催されました。前回大会では、皇后杯5連覇という偉業は達成したものの総合得点では49点減らし、内容ではとても満足できる結果ではありませんでした。又その結果として「スポーツ立県」を掲げる本県の国体総合成績は過去最低の42位となり、責任の一端を感じ続けた一年間でもありました。特に、これまで得点源であったクロスカントリーの男子陣は個人入賞なしという屈辱を挽回すべく奮起を期しての大会となりました。そんな諸々の思いを抱えながら調整を終えて宿舎入りした選手団は、選手、スタッフが一丸となって戦おうとする「チーム秋田」を十分に肌で感じることできる緊張感漲る雰囲気がありました。

皇后杯を含め総合で目処のたつ競技初日、ノルディック陣が大健闘。クロスカントリーでは最近入賞のなかった男子成Aで児玉宗史選手が見事4位入賞を果たしてチームに勢いをつけてくれ、優勝こそなかったものの男女合わせて大量8名が入賞を果たしました。又、スペシャルジャンプでは、高橋大斗、小山内佳彦の見事なワンツー、成Aでも2名の入賞とすばらしいスタートとなりました。しかし、残念ながら得点を目論んでいたアルペン成Aは男女共に入賞を逃し、特に取りこぼしのできない皇后杯を狙うには非常に厳しい初日となりました。2日目。ノルディックコンバインドでは湊祐介選手が貫禄勝ちし、少年組でも木村吉大選手が入賞。女子リレーでは、高校生が大健闘し石垣寿美子選手がしめくくって見事昨年の雪辱を果たし歓喜の優勝。アルペンも踏ん張り生田康宏選手が優勝、金子未里選手の2位、高橋将也選手も成Bで意地の5位入賞を果たしましたが、皇后杯では長野に届かず2位が確定、残念ながら6連覇はなりません。2日目を終えた時点で、天皇杯得点は長野が頭一つ抜け出し、秋田、新潟が同点で2位、北海道が僅差で後を追う展開となりました。最終日。男子リレーは共に健闘、少年が4位、成年は見事3位入賞を果たし会場を大いに盛り上げてくれました。結果、優勝4を含め入賞数25、総合得点では昨年より27点増の120点と大健闘をしましたが、天皇杯では僅差の4位、そして皇后杯は無念の2位でした。勝負の厳しさを痛感すると共に、昨年までの5連覇が改めて大偉業だったことを感じさせられた大会でもありました。

さて今シーズン。数々の実績を残し本県に多大な貢献をしてくださいました高橋大斗選手が引退しました。更には平昌を目指す選手には勝負のシーズンともなるでしょう。考えあわせましても、又厳しい戦いが始まることを実感しております。第71回国体はお隣八幡平市での開催でもあります。関係者には、引き続き変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後にフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会開催に関して多大な貢献をして頂いた石井政巳フリースタイル部長の急逝に衷心よりお悔やみ申し上げます。